No. 1

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石4020	三原市大畑町（中国物産）4020	A	化学法	40～20	7.95	－	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％ 0.5
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上水道水・上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	2.21	1.66	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	41.4％	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:② 60.0:40.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

（1）変動係数（v）　　当工場の実績により　v ＝ 9　％

（2）配合強度（m）

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.28$ N/㎟

よって　$m = 29.28$ N/㎟

（3）水セメント比（W/C）　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (29.28 + 24.5) \times 100 = 57.0$ ％ ≦【60％（上限値）】

∴W/C ＝ 57.0 ％

（4）単位水量（W）　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

（5）単位セメント量（C）　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$　kg/m³

$C_v = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.02 = 91$　ℓ/m³

（6）空気量（A）　$A = 4.5$ ％ $\times 1000 = 45$　ℓ/m³

（7）細骨材率（s/a）　　当工場の実績により　s/a ＝ 41.4 ％

（8）単位細骨材量（S）　$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 707 \times 41.4$ ％ $= 293$　ℓ/m³

$S = S_v \times$ 表乾密度 $= 293 \times 2.67 = 782$　kg/m³

$S1 = S \times 60.0$ ％ $= 469$　kg/m³

$S2 = S \times 40.0$ ％ $= 313$　kg/m³

（9）単位粗骨材量（G）　$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 586 = 414$　ℓ/m³

$G = G_v \times$ 表乾密度 $= 414 \times 2.63 = 1089$　kg/m³

$G1 = G \times 60.0$ ％ $= 653$　kg/m³

$G2 = G \times 40.0$ ％ $= 436$　kg/m³

（10）単位混和剤量（Ad）　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.8000$ ％ $= 2.21$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.6000$ ％ $= 1.66$　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	2.21	1.66	－

水セメント比	57.0 ％	細骨材率	41.4 ％	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②	60.0:40.0
					粗骨材①:②	60.0:40.0

備考

No. 2

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。 夏期配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石4020	三原市大畑町（中国物産）4020	A	化学法	40～20	7.95	－	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％ 0.5
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	2.76	1.66	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	41.4％	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②	60.0:40.0
			粗骨材①:②	60.0:40.0

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

（1）変動係数（v）　　当工場の実績により　v ＝ 9　％

（2）配合強度（m）

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.28$ N/㎟

よって　$m = 29.28$ N/㎟

（3）水セメント比（W/C）　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (29.28 + 24.5) \times 100 = 57.0$ ％ ≦【60％（上限値）】

∴W/C ＝ 57.0 ％

（4）単位水量（W）　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

（5）単位セメント量（C）　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 157 ÷ 57.0 × 100 ＝ 276　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 276 ÷ 3.02 ＝ 91　ℓ/m³

（6）空気量（A）　　A ＝ 4.5 ％ × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

（7）細骨材率（s/a）　　当工場の実績により　s/a ＝ 41.4 ％

（8）単位細骨材量（S）　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 707 × 41.4 ％ ＝ 293　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 293 × 2.67 ＝ 782　kg/m³

S1 ＝ S × 60.0 ％ ＝ 469　kg/m³

S2 ＝ S × 40.0 ％ ＝ 313　kg/m³

（9）単位粗骨材量（G）　　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 586 ＝ 414　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 414 × 2.63 ＝ 1089　kg/m³

G1 ＝ G × 60.0 ％ ＝ 653　kg/m³

G2 ＝ G × 40.0 ％ ＝ 436　kg/m³

（10）単位混和剤量（Ad）　　Ad1 ＝ C × 添加率 ＝ 276 × 1.0000 ％ ＝ 2.76　kg/m³

Ad2 ＝ C × 添加率 ＝ 276 × 0.6000 ％ ＝ 1.66　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	2.76	1.66	－

水セメント比	57.0 ％	細骨材率	41.4 ％	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

備考

No. 3

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。 冬期配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石4020	三原市大畑町（中国物産）4020	A	化学法	40～20	7.95	－	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％　0.5
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	1.66	1.52	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	41.4％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

（1）変動係数（v）　　当工場の実績により　v ＝ 9　％

（2）配合強度（m）

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.28$ N/㎟

よって　$m = 29.28$ N/㎟

（3）水セメント比（W/C）　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (29.28 + 24.5) \times 100 = 57.0$ ％ ≦【60％（上限値）】

∴W/C ＝ 57.0 ％

（4）単位水量（W）　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

（5）単位セメント量（C）　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 157 ÷ 57.0 × 100 ＝ 276　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 276 ÷ 3.02 ＝ 91　ℓ/m³

（6）空気量（A）　　A ＝ 4.5 ％ × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

（7）細骨材率（s/a）　　当工場の実績により　s/a ＝ 41.4 ％

（8）単位細骨材量（S）　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 707 × 41.4 ％ ＝ 293　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 293 × 2.67 ＝ 782　kg/m³

S1 ＝ S × 60.0 ％ ＝ 469　kg/m³

S2 ＝ S × 40.0 ％ ＝ 313　kg/m³

（9）単位粗骨材量（G）　　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 586 ＝ 414　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 414 × 2.63 ＝ 1089　kg/m³

G1 ＝ G × 60.0 ％ ＝ 653　kg/m³

G2 ＝ G × 40.0 ％ ＝ 436　kg/m³

（10）単位混和剤量（Ad）　　Ad1 ＝ C × 添加率 ＝ 276 × 0.6000 ％ ＝ 1.66　kg/m³

Ad2 ＝ C × 添加率 ＝ 276 × 0.5500 ％ ＝ 1.52　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	469	313	－	653	436	－	－	1.66	1.52	－

水セメント比	57.0 ％	細骨材率	41.4 ％	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

備考